

平成22年5月24日

平成21年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者、コース等名 特別支援教育

氏 名 大谷 博俊

プロジェクトの名称	ネットワークで進める特別支援教育の新しいかたち —特別な教育的ニーズのある子どものライフサイクル支援に視点をあてて—	配 分 予算額	1,200,000 円
プロジェクトの概要	本プロジェクトにおいては、特別支援教育専攻が要となつて、附属特別支援学校との連携、公立小中学校及び高等学校との連携、保健・医療・福祉機関との連携を図る中で、特別な教育的ニーズのある子どものライフサイクルに即した特別支援教育の推進を目指すものである。そのために、地域支援に求められる連携体制の基盤を構築することを、平成21年度の当面の目標として設定した。目標を達成するために、具体的には以下の3つの柱を立てて研究を推進した。 <附属特別支援学校との連携> 附属特別支援学校の役割であるセンター的機能の中で、現職教員への研修機能に焦点化し、附属学校の教員と大学教員とが協働し、効果的な研修の在り方を検討・実施する機会を設け、特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒への支援方法の改善に努める。具体的には、公開研究会の計画・実施、附属特別支援学校とN市を始めとする3市町の小・中学校教員との連携による継続研修プログラムの立案・運用および県立養護学校との連携による合同研修プログラム実施・検討である。 <公立小中学校及び高等学校との連携> 学校関係者と大学教員とが事例についての詳細な検討を行う機会を設けて、各校に在籍している特別な教育的ニーズを有する児童生徒への支援方法の最適化を目指した。具体的には、事例相談の分科会や講演会等を企画し、それらを通じて、公立諸学校の教員・特別支援教育コーディネータ・特別支援教育士や学校心理士の有資格者・保育所や医療機関関係者等、特別支援教育に造詣が深い各界の人材との連携を深めることが目的である。 <保健・医療・福祉との連携> 徳島県の行政、教育委員会、保健医療福祉関連機関などの種々の領域と連携し、共働研究を進めることにより、地域社会への啓発、および支援情報の共有化を図った。具体的には、徳島県保健福祉部・徳島県教育委員会等と連携しての発達障害シンポジウムの実施、高機能発達障害児を対象とした特別支援教育と発達障害ライフサイクル支援に関するニーズ調査の実施および報告書の作成である。		
成果の概要	本プロジェクトの実施により、特別支援教育専攻と附属特別支援学校・公立小中学校及び高等学校との連携、さらには当専攻と保健・医療・福祉分野との連携をより一層深めることができ、徳島県における特別支援教育を発展させるための意義ある試みとなった。具体的には次のような成果が認められた。 <附属特別支援学校との連携> 1) プログラム参加者に対して、個別の指導計画作成に関わる理論的実践的な研修を提供することができ、且つ、研修効果を見るための新たな方法に本専攻の修士論文にかかる研究内容を活用するなど、研究面のコラボレーションもあった。このような大学との連携において成されたニーズに応じたきめ細かな研修によって、実践に活用し、センター的機能の進展に繋げることができた。 2) 継続研修プログラムの実施により、附属特別支援学校と3市町の小・中学校教員との密接な協力関係が構築でき、プログラム参加者の高い評価を得ることに繋がった。 3) 合同研修プログラムの実施により、附属特別支援学校と県立養護学校との連携を深めることができた。また研修プログラム実施のための情報や支援ニーズの把握の必要性など、プログラム発展のための課題の整理ができた。 <公立小中学校及び高等学校との連携> 1) コミュニケーションと読み書きの支援に関する講演会を催したことにより、公立諸学校の教員や特別支援教育コーディネータのニーズに応えることができ、児童・生徒への個別指導の在り方に関する問題意識を共有できた。 2) 特別支援学校での実践課題・通常学級での実践課題・行動面や学習面での支援の実践課題というニーズに特化して、各々の事例相談分科会を設けたことにより、公立諸学校の教員との交流のみでなく、当専攻の修生との交流をも深めることができた。 3) 事例相談分科会のディスカッションの中で、学校管理者・特別支援教育士・学校心理士・保育所や医療機関関係者の意見を積極的に聴取し、相互コンサルテーションの機会がもてたことにより、心理・教育・保健・医療・福祉の各界の人材との連携が可能になった。 <保健・医療・福祉との連携> 1) 徳島県保健福祉部、徳島県教育委員会等との連携による発達障害シンポジウムを実施していく中で、行政機関、教育機関、保健医療福祉機関の専門家や保護者との情報交流が進められ、広く地域の方々への啓発活動を行うことができた。 2) 発達障害支援プロジェクトチームを立ち上げ、発達障害者（児）の早期発見、早期支援、そして対応の充実をめざし、ご本人及びご家族、そして特別支援教育にかかわる各専門家から一般の方々まで、幅広く参考としていただけたよう「発達障害ライフステージ支援ハンドブック～小児期後半～」を作成し、今後の広報活動にもつながる成果を残すことができた。		

- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記入すること。
2. 概要については、800字程度にまとめること。
3. 研究協力者として院生等が参加している場合、院生等の報告書があれば添付すること。
4. なるべくパソコン等で作成願います。

区 分	品 名 等	規 格 等	数 量	単 価	金 額	備 考
備 品 費				円	円	
小 計					0円	
消 耗 品 費	研究用図書 液晶ディスプレイ スライドICレコーダー 郵送料（会報等） 郵送料（大会案内等） 封筒（会報等） 封筒（大会案内等） 文房具類	液晶 KM-2M-100 ICD-UX200 140円切手 80円切手 角2封筒 長3封筒 A3PPC用紙 A4PPC用紙 油性マーカー スティックのり ボールペン インクジェット用紙 インク（7色マルチ） インク（9BK）	31 1 2 171 146 2束 1束 2箱 2箱 6 11 11 1束 5箱 10	50,400円 10,282円 140円 80円 1,433円 609円 6,400円 5,334円 約90円 275円 236円 3,150円 3,300円 1,000円	56,587円 50,400円 20,564円 23,940円 11,680円 2,866円 609円 12,800円 10,668円 545円 3,025円 2,596円 3,150円 16,500円 10,000円	
小 計					225,930円	
そ の 他	旅費 講師謝金 講師旅費 ホテル総借り上げ料 ポスター印刷費 チラシ印刷費 シンポジウム等運営補助 ハンドブック印刷費	東京都 富山県 香川県 愛媛県 AM講演料、2時間 大阪—鳴門、往復 会議費等含む	1 1 2 1 2 2 1 1 1 65 1	56,180円 49,460円 8,680円 22,000円 10,000円 3,935円 384,484円 39,900円 37,800円 800円 287,016円	56,180円 49,460円 17,360円 22,000円 20,000円 7,870円 384,484円 39,900円 37,800円 52,000円 287,016円	
小 計					974,070円	
合 計					1,200,000円	